

### 第3回おおた未来プラン(後期)策定懇談会 議事要旨

日時	平成25年11月19日(火) 午後6時～8時
会場	大田区役所 第5・第6委員会室
出席者	青山委員(会長)、伊藤委員、岡元委員、奥田(和)委員、奥田(義)委員、加藤委員、岸田委員、熊倉委員、佐藤委員、竹山委員、千原委員、鳴嶋委員、福井委員、舟久保委員、星野委員、宮澤委員、森委員(五十音順) 高瀬顧問、丸山顧問
欠席者	田中委員、中井委員(会長代行)

#### 1 開会

##### 【会長】

- ・第3回おおた未来プラン(後期)策定懇談会を開催する。
- ・開会にあたり、区長から挨拶をお願いする。

##### 【区長】

- ・4月・7月に懇談会を開催し、貴重な意見を数多くいただいた。この3か月間で区役所一丸となり、区の将来像を実現するため施策の再構築を行い、おおた未来プラン(後期)素案をまとめた。
- ・本日は、この素案に意見をいただきたい。
- ・未来プランを策定してから、この4年間に、東日本大震災の発生、少子高齢化の進行や、9月の初めには、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した。
- ・後期5年はもちろん、その先も見据え、地域力と国際都市を区政の推進力として、一層力強く前進させる後期プランとした。
- ・懇談会は、今回が最後になるが、活発な議論と忌憚のない意見をいただくとともに、未来プラン(後期)ができ上がる3月までの任期期間中、引き続き協力を賜りたい。

##### 【会長】

- ・今回は、10か年計画の後期5年間について意見を出し合うということで、3回の懇談会で回数が少なく、もっとやりたい気持ちが皆さんおありかもしれないが、区長には毎回出席してもらいよかったと思う。
- ・出席者数、定足数等の確認を事務局からお願いする。

##### 【事務局】

- ・本日の会議には16名(その後1名出席)の懇談会委員が出席しており、おお

た未来プラン（後期）策定懇談会設置要綱の規定を満たしており、本会議が成立していることを報告する。

- ・前回公務で欠席の幸田副区長は、第1回の懇談会までは学識経験者であった。本日出席しているので、挨拶をさせていただく。

**【副区長】**

- ・どうぞよろしく。

**【会長】**

- ・配付資料の確認等を事務局からお願いする。

**【事務局】**

(配付資料の確認)

## 2 『おおた未来プラン10年（後期）素案』について

**【会長】**

- ・事務局から資料全体を説明し、その後、基本目標ごとに委員の意見を承る。事務局から資料の説明をお願いする。

**【事務局】**

(資料1・2・3・4を説明)

## 3 『おおた未来プラン10年（後期）素案』に関する意見交換

**【会長】**

- ・基本目標1と2と3と、3こまに分けて、意見等をお願いする。基本目標の1番「子育て・教育・保健・福祉領域」について意見等のある方から発言をお願いする。

**【委員】**

- ・「体験学習」が箱出し事業になってない。社会と子どもがつながることが重要であるが、大田区の教育では、この重要性を理解していないのではないかと。箱出し事業にすべき。

**【委員】**

- ・目標値があつて、それに向かって努力し、進めていくことが大事であるが、目標値のほとんどが「調整中」で、数値目標が載っていない。目標値を示すべき。

**【事務局】**

- ・素案を12月に決定し、パブリックコメントにかけるが、その時点では、このモノサシ（指標）の目標値も入った形でお示しする。

**【委員】**

- ・今回の懇談会では、目標値が調整中の中で議論をするということによいか。

**【事務局】**

- ・本日配付したガイドラインの中で、目標値の設定についてという事項を記載している。既に、前期のプランで目標値を設定しているが、それをより適切な目標値として設定するために、現在ガイドラインに従って検討している。

**【会長】**

- ・これからパブコメとか説明会の過程で、数字が表示されるという理解でよいか。

**【事務局】**

- ・はい。

**【委員】**

- ・「高齢者が地域で包括的なケアを受け、安心して暮らせるまちをつくります」の施策のモノサシ（指標）について、認知症の患者は本当に急速に増えており、大田区でも急速に増えることが考えられる。「認知症サポーター養成講座事業」で、どのぐらいのサポーターが養成されたかというようなことが指標になってもいいのではないか。

**【委員】**

- ・晩婚化の影響で、不妊治療で悩んでいる人が多いという視点が抜け落ちている。少子高齢化の中で、子供を増やすことは大きな課題であるので、不妊治療対策を盛り込んでいただきたい。

**【委員】**

- ・大田区に生活保護受給者がたくさんいる。大田区として、生活保護者に対して、減らすと言うと変な言い方だが、よりよく暮らせるためにどういう方法があるかということを検討する必要があるのではないか。

**【委員】**

- ・不妊治療は、専門の病院があるが、保険がきかないのが難点だと思う。
- ・地震について、危ない時期に来ているのではと、素人でも考える。危険な時期などの情報が適切に事前にわかれば、何か処置することができるのではないかと思っている。

**【委員】**

- ・就学前の3歳以上は、保育だけではなく教育を受けていくという方向に変わってきている。幼児教育への支援について、具体的な形で盛り込んでほしい。

**【委員】**

- ・東京オリンピック・パラリンピックが7年後に開催され、日本、東京、また、大田に目を向けていただくとき、大田の文化を発信する施策を盛り込めば、今後の観光や、産業にも寄与すると思う。

**【委員】**

- ・保育園の待機児童の問題で、指標では5年後に100%にするとあるが、1年でも早く解消してほしい。
- ・発達障害の問題について、発達障害の認知が広がっている。子ども、成長期、大人という切れ目のない対応を要望する。

**【委員】**

- ・全国各地で若者会議という、新しい時代で何か新しいことをしようという活動が起こっている。「青少年の健全育成」の項目等で、新しい動きも捉えてみてはどうか。

**【委員】**

- ・高齢社会の中では、1-2-4の生涯学習は推進すべき。生涯学習のほかに、3-1-1で地域の担い手という視点が出ており、3-2-1ではエコプラザを活動の拠点にするとある。計画ではそれぞれが分かれて記載されているが、1人の区民からすれば、活動するという点で共通している。施設を複合化し、地域ごとに様々な活動が交流・共有ができる拠点ができれば、地域力の向上につながる。

**【委員】**

- ・視覚障害者の活動に参加しているが、目の見えない方は、点字と思いがちだが、中途視覚障害者の方は、なかなか点字が読めない。
- ・区報や区のホームページに声のサービスがあるように、生活の上でユニバーサルデザインを考えると、声の部分も視点に入れてほしい。

**【委員】**

- ・介護や医療の現場では24時間体制でその現場を支えている。離職を防止する意味でも、そこで働く人たちが、子どもを安心して預けて働ける場所を数か所整備してほしい。

**【委員】**

- ・部活をしていない中学生の子どもたちは、やることなく、何をしていたのかわからず悪いことに手を染めることも見受けられる。
- ・生徒の安全な放課後の居場所づくりで、何かを学べるようなところを盛り込んで欲しい。

**【委員】**

- ・1-2-3の現状と課題に、「障がい者が自らの選択により」とあるが、選択ができない状態が社会にある。合理的配慮はどこまで要するのか、というガイドラインくらいは決めておいたほうが良い。

**【委員】**

- ・「歴史文化を大切に作る地域づくり」とある。ものづくりの歴史を展示するような場所があれば良い。

**【委員】**

- ・女性の就労で区の中小企業と女性で仕事をしたい方をマッチングさせる事業を考えられないか。

**【会長】**

- ・基本目標2の「土地基盤・空港臨海部・産業領域」の部分について、委員の意見を承りたい。

**【委員】**

- ・大田区はものづくりの街だと言われているほどには、全然活気がない。
- ・「これまでの成果」で行政の懸命さで上手くいっていると思われることは、現実との乖離を感じる。
- ・区の中小企業では、経営者の直系の後継者が、二桁以上交替しており、今後のものづくりを引っ張っていくという言葉を入れてはどうか。
- ・モノサシ指標に関して、付加価値率ではなく、売り上げの総額、区の総生産額の変化が大事である。
- ・「新製品・新技術開発の支援」では、国や都、区でもアウトプットをきちんと捉えていない。企業なら投資すれば必ず回収するように助成金に対する何らかの工夫が必要ではないか。

**【委員】**

- ・「大森甚句」を今、盛んにPRしておりOTAふれあいフェスタで、来～る大田区大使と一緒に踊るよう誘ったら、あっという間に打ち解けた。踊りや歌は、国に関係なく交流が良くなることをつくづく感じた。

**【委員】**

- ・従来の産業構造の中で大田区のものづくりは発展してきたが、産業構造が変わっているため、産業戦略を策定するという文言がほしい。国も自治体も創業支援を行ってきたが、創業率は10年間変わっていない。従って新たな観点から戦略的に再考するという記載が必要である。

**【委員】**

- ・空港臨海部は、将来をフリーハンドで描ける地域であり、ここを活用して人が来られる地域にすべき。焼却場等もプラスに捉えれば、環境の視点から産業振興もできる。
- ・問題は、交通アクセスが悪いこと。新空港線ができてでも空港を除く臨海部全体では不十分で、交通アクセスの改善について検討すべき。

**【委員】**

- ・「魅力と個性あふれる都市をつくります」で、大田区の顔となる蒲田、大森駅周辺が書かれているが、区を中心エリアをどうするのかイメージがわからない。

- ・京急蒲田と JR 蒲田の間を結ぶと臨海部にも行きやすい。その辺もあわせてまちづくりを考えて欲しい。

**【委員】**

- ・ものづくりの人材の確保で、若い方の育成や匠の技術を持つ方を守る情報集積を、ぜひ手がけていただきたい。

**【委員】**

- ・今ある技術を生かし、集積させる。下町ボブスレーの挑戦のように、しっかり支えるのが区の仕事である。

**【委員】**

- ・ものづくりの観光や温泉など区は従来から観光資源が、まちの中に根付いているので、空港を利用した方に提供できるよう考えて欲しい。
- ・海外の方が両替をまち中でできるなど、直接のインフラ整備の設置を考えて欲しい。

**【委員】**

- ・ふれあいパーク活動では、「地域力を生かしたみんなのみどりづくり」と表現されているが、バザーや防犯防災活動など「みどりづくり」以外の活動もあるので表現が気になる。

**【会長】**

- ・基本目標 3 「地域力・環境・区政体制領域」の部分で意見のある方は、発言をお願いします。

**【委員】**

- ・災害に強いまちづくりでは、ペットよりも大事なものは、例えば女性や高齢者など社会的弱者の視点ではないか。

**【委員】**

- ・住民にとって一番大事なのは、住んでいるまちが安全だということだろう。防犯カメラの増設など防犯には力を入れてほしい。
- ・もう一つは火災。大火は最近少ないが、大火に対する心構えが必要である。大震災のときの水利はどうするのが心配。防火水槽をつくっていく必要がある。
- ・井戸水を提供できる場所をマップにしてほしい。
- ・郷土愛は、区政の基本であり、学校教育からしっかりやるべきだが、大田区は人口も面積も大きいため、なかなか一体感が出ない。
- ・区民ニーズをキャッチするための地区協議会あるいは地域地区を研究する必要がある。
- ・全体で見て、この計画は非常によくできていて、わかりやすい計画である。計画は、サービス提供が中心になるが、やはり協働が大切であるので、住民

へのお願いの記述があっても良い。

- ・基本的な考え方で、財政フレームをまとめるとあるのでぜひ示してほしい。

**【委員】**

- ・10月に隣の自治会で放火事件が起きており、夜中に出したごみがねられるので、ごみは夜に出さず、昼間に出さないと非常に危険である。

**【委員】**

- ・「地球環境をみんなで守り未来へ引き継ぎます」では、毎年、太陽光発電の設置助成が満額になるなど、応募件数が多いのだが、中間目標に最新値が届いていない。
- ・その年度の予算と目標値の整合性が、今後の予算編成で求められる。
- ・「再生可能エネルギーの導入拡大」は、公共施設の設置と住宅用の太陽光発電にとどまっているので、風力とか様々なエネルギーをものづくりと連携して生み出すような積極的な姿勢をとってほしい。

**【顧問】**

- ・この未来プラン10年は、大変評価できるプランで、ぜひ実現すべき。
- ・施策の方向性が書いてあって、箱出し事業がない箇所がある。方向性を出した以上は、具体的な内容や期間等も記載すべき。

**【委員】**

- ・避難所で長期に生活されることも想定し、不幸なことがないような対応をしてほしい。
- ・学校等は避難所として、誰もが行き得るので、学校のバリアフリーを徹底して推進すべき。
- ・防犯カメラも否定はしないが、誰かが見ている、誰かの目があるという、地域の共同の鍵が必要であると思う。

**【委員】**

- ・環境の件であるが、区も都市型の循環型社会を臨海部を中心につくれるのではないか。
- ・産学協同で大学と連携して、廃棄物を資源として活用するような産業ができるチャンスもあるのではないか。

**【委員】**

- ・トピックスについて、「課題解決に向けた施策展開」の内容とモノサシ指標及び各目標との対応関係を整理したほうが良い。
- ・前期はどこまで達成し、後期はどこまで追求するか。改めて今回指標をつくり直し、進むべき方向性を再検討したところを、全体を通じて見やすくできるようにすると良い。
- ・3-3-1のモノサシはつくりづらいが、今後の区政体制の見通しをより明ら

かにするために、施設整備や職員の人材育成についてモノサシ指標としても良いのではないか。

**【委員】**

- ・前期5年間で変化があったように、後期5年間でもまた大きな変化が起こることが予想される。これをしっかり考えながら、区民生活の向上に向けて邁進してほしい。

**【委員】**

- ・後期の5年間でこの計画をより周知することが重要である。
- ・トピックスの順番は、1→3→2のほうが良いのではないか。

**【事務局】**

- ・この1→2→3の順番に優先順位づけはなく、1と2は新しい事柄で、3は、引き続き普遍的な課題をあげている。

**【委員】**

- ・少子高齢化社会において、労働力人口世代の女性で本来の能力を発揮できていない人が多い。女性の社会進出をもっと盛り込んでほしい。

**【委員】**

- ・35歳を過ぎると妊娠しづらくなるという啓発や里親、不妊治療など、子どもができるまでの対策という視点を盛り込んでほしい。

**【委員】**

- ・3-3-1の区政体制について、国の議論も効率化に走りすぎている部分がある。地方自治では、住民の意思も大切であり、郷土意識の醸成をより強化すべき。

**【委員】**

- ・公共施設整備計画は調整中となっているが、今後しっかり出してほしい。

**【委員】**

- ・トピックス2について、オリンピックのそもそもの目的である、スポーツを通じて国際平和、友好を促進するという視点も加えてほしい。

**【委員】**

- ・女性の就労促進と同時に、父親が子育てに参加しやすいよう企業に働きかけるなども加えてほしい。
- ・公共施設の大規模改修では、効率的な複合化の検討を進めてほしい。

**【会長】**

- ・トピックス2について、オリンピックを支援するという表現ではなく、オリンピックを機に開かれた大田区をつくります、など「大田区がこうなります」という表現としたほうが良い。
- ・地上交通を整備させます、あるいはしますという表現を加えたほうが良い。



- ・オリンピック憲章は国際平和と差別の解消であるため、外国人等受け入れ環境の整備の記載をより充実させたほうが良い。外国人が安心して飲食等ができるためには、言語の問題だけではなく、民族や宗教の習慣に対応することが今後重要になる。
- ・バリアフリーも、東京は相当進んでいるが、大田区がさらに進むということのを遠慮せず書いても良い。
- ・未帰属地については、城南島の名前を入れ、区境を書いたほうが良い。
- ・モノサシ指標は、例えば虐待、いじめ、人間関係、差別等のように、必ずしもアウトカムに馴染まない行政分野もある。アウトカム指標で示せない部分は示さないとはっきりさせても良い。一方、産業のようにアウトカムが示せるものについてはもっと並べても良い。
- ・次第4について事務局から願います。

#### 4 事務連絡

##### 【事務局】

(資料5を説明)

- ・パブリックコメントは、12月下旬から来年の1月の中旬を予定している。素案の「区民説明会」は、パブリックコメントに合わせ、1月8日(水)の午後6時半から、1月11日(土)午後1時からの2回開催する。
- ・自宅に帰ると意見が多々あると思うので、意見等提出用紙に記入の上、FAX、メール、郵送等で送っていただきたい。
- ・懇談会は本日最終回であり、これまでの意見を踏まえ、未来プランを取りまとめていくが、懇談会の委員及び顧問には、素案への意見や最終的な計画案を送付するので、これからもよろしく願います。

##### 【会長】

- ・最後に、区長から感想などあれば願います。

##### 【区長】

- ・多方面にわたりご意見を頂戴し、感謝する。いただいたものをしっかりと反映させ、これからも臨んでいく。
- ・これから区民の方々や議会から、修正の部分も出てくると思うが、前期に負けない後期プランにしたいので、引き続き協力をお願いする。
- ・お忙しいところ出席いただき、心から感謝し挨拶にかえる。

##### 【会長】

- ・この懇談会は、基本構想を策定した際の審議会で、計画をつくりっ放しではなく、フォローする仕組みをつくるべきという意見の流れで、5年間分の改定作業に当たりこの形になったと思う。

- ・わずか3回だったが、委員から活発に大変貴重な意見をいただいた。
- ・区がこういう形で計画をつくる仕組みが定着することは、区の発展、区の民主主義にとって、大変良いことである。
- ・皆さんからも非常にいい意見を次々と強く出していただいたことに感謝し、懇談会を終わる。

**【事務局】**

- ・追加の意見は、事務局に送ってほしい。
- ・長時間にわたり有意義なご議論をいただき、ありがとうございました。

**5 閉会**

### 第3回懇談会の追加意見

#### 【委員】

- ・羽田の国際化について、拡大年度を再確認し、「昼間枠3万回拡大」としてはどうか。
- ・外国人受け入れ環境の整備に、観光客のみならず「外国人にとって住みやすく働きやすいまちづくり」を追加。
- ・世界中のクリエイティブな人材が集まり「モノづくりやビジネスを展開する舞台となる事」を、施策に入れてほしい。
- ・高い観光展の趣旨が全区民に見てもらおうとあるが、前期プランや施策の体系の通り、観光を全国に発信、世界に発信することが趣旨と思う。
- ・区の観光施策体系に、前期プランにあった「ものづくりのまち体験ツアーの実施など」が抜けている。観光協会の「おおたオープンファクトリー」は、「第7回産業観光まちづくり大賞金賞」の評価を受けており、「クリエイティブタウンラボ」の開設準備も進んでいる。この現場を率先して応援する施策を行って欲しい。

#### 【委員】

- ・行政サービスは、区民の満足度や幸福度で判断するのが良い。荒川区が中心で活動している「幸せリーグ」活動を参考にしては。

#### 【委員】

- ・地域自治区・地区協議会のような中間の行政システムを検討し、当面、特別出張所の窓口で区役所OB職員等が区民ニーズの対応強化や相談にあたることはできないか。
- ・区が管理する公園や施設の地下に、大震災等に対応する防火水槽の設置を都と協力してできないか。毎年、計画的に公園等で深井戸を掘り、平時は植栽等の散水源とする水の確保を検討してはどうか。
- ・景観と安全等の良好な生活環境を確保するため、地方自治体が、地域の必要に応じて、権利・義務に係わる行政事務について条例で規制する範囲が拡大している。区として一層の対応と既存の法令の適切な適用を。